

《沖縄協同病院の理念》

- 患者様に信頼され、質の高い安全・安心な医療をめざします。
- 人権を尊重し、納得のいく説明と同意、情報開示を提供します。
- 地域と連携し、総合的な医療・福祉・介護の提供に努めます。



沖縄協同病院・病院広報委員会

那覇市古波蔵4丁目10番55号
 TEL.(098)853-1200
 FAX.(098)853-1212
 http://oki-kyo.jp
 発行責任者 仲程正哲

新病院施設の紹介⑦

県内初のクックチルシステムでおいしい食事提供



栄養管理室は、1階の東側(赤十字病院側)にあり管理栄養士、調理師、パートを含め23名のスタッフで日々おいしい食事作りに頑張っています。何といても新施設の特徴は県内で初めてクックチルシステムを導入したことです。

これは加熱調理した料理をおいしさや風味を損なわずに急速に冷却保存し、患者様に提供する直前に最適な温度に再加熱するシステムです。システム導入により、衛生管理された安心安全な食事はとよみ生協病院へも配送することが可能になりました。

今年は患者様一人ひとりの嗜好や満足度に応えられる食事作りをめざして頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

栄養管理室長 新垣慶子

謹賀新年



信頼される病院を目指して



組合員の皆さん明けましておめでとうございます。

新病院での医療状況は当初、様々な準備不足がありましたが予想以上に早く日常業務が遂行できるようになりました。

おかげさまで移転後は新患者様や救急車受け入れ、入院数、手術件数、分娩数が増加しています。

今後も地域住民、組合員さんから信頼される病院、自らが働き甲斐のある病院、そしてなによりも知人友人にも自信をもって勧められる魅力ある病院を目指し、皆で論議し知恵を出し合い頑張っています。

組合員の皆さん今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

院長 仲程正哲



病院の活動状況 <11月度>

- ・外来平日(月~金) : 779.2人(前月比+46.3人)
一日平均患者数
- ・組合員利用率 : 53.1%(前月比-1.9%)

細菌検査

検査室



細菌検査室 屋嘉比紫福

細菌検査の重要性は菌種を特定し適正な薬を選ぶことです。もし菌種を特定しない、いわゆる強い(何にでも効く)薬を使うことは薬剤耐性菌(薬が効かない菌)を増やす結果となり、それが一般社会に広まると免疫力の弱い人や保育園、老人ホームなどで感染者が出ることとなります。

細菌検査の重要性は菌種を特定し適正な薬を選ぶことです。もし菌種を特定しない、いわゆる強い(何にでも効く)薬を使うことは薬剤耐性菌(薬が効かない菌)を増やす結果となり、それが一般社会に広まると免疫力の弱い人や保育園、老人ホームなどで感染者が出ることとなります。

④簡易検査

検査は二〇分位で患部の細菌や尿中に排出される細菌の死がい免疫学的に検査する方法で、肺炎を起こす肺炎球菌などに利用されています。

③同定感受性検査

検査は一日かかり、同定検査は育てた細菌を生化学的性状などにより細菌名を調べます。感受性検査は細菌に対して、どの薬が効くのか、また効かないのかを調べます。

②培養検査

検査は二三日かかり、検査物を目的とする細菌の検出試薬や栄養素を入れた培地や環境条件を変え培養(育てる)します。

①塗沫顕微鏡検査

検査時間は〇分位で、検査材料をガラス板に塗り、染色(一般的に青と赤に染める)をして顕微鏡で細菌の有無、形などを観察します。患者様の具合が急変したときには、緊急である程度の菌種を特定し、それに対する薬が経験的に投与されるといってもあります。

細菌検査の業務

検査物(検体という)には尿、喀痰、便、膿などがあり、患者様由来するものなら何でも検査できます。

細菌は目に見えない微生物で、私たちの生活環境や体の内外に無数に生息しています。細菌には人に有害なものやまったく無害なもの、また有益なものもいます。健康人に無害な菌でも体内の免疫力が落ちている病人に対しては、有害に働くときがあり、これを日和見感染症と言います。病気の患者様の感染症問題となります。

